

## 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月24日

札幌市立稲積小学校

## 1 本年度の重点目標

**全ての子が安全に安心して過ごせる学校**  
**合言葉 ～元気にあいさつ 笑顔でありがとう～**

### 学ぶ力を育てる授業の創造

**研究主題 「主体性を発揮する子どもの育成」**  
**～自己決定の場面を工夫することで子どもが主体性を発揮する授業～**

- 課題探究的な学習       本物の経験（地域の自然を生かした体験活動の充実）
- 授業力向上に向けた研修の充実       キャリア教育の取組（キャリアパスポート）
- わかる・できる・楽しい授業づくり…深い学び       学ぶ力育成プログラムのPDCA
- 学習評価の在り方（指導と評価の一体化）       クロームブックの効果的活用
- まずは我々がワクワク感（ゲストティーチャー・出前授業）       デジタル教科書

### 豊かな心を育てる教育活動

- 人間尊重の教育       命を大切に取る取組
- 自己肯定感や相互承認を高める取組
- いじめの未然防止      早期発見・対応
- 思いやりと寛容にあふれた集団づくり
- 安心して生活できる環境づくり
- 気持ちのよい挨拶感謝       道徳授業の充実
- 共通ルールと約束       いなづみ発表会

### 健やかな体を育てる教育活動

- 健やかな身体育成プログラムのPDCA
- 縄跳びやボール遊び等の運動の機会や場の工夫
- 家庭と連携した基本的な生活習慣の確立
- 怪我防止に資する健康安全教育の推進
- 食育の推進       いなづみスポーツDAY
- 運動嫌いを作らない体育学習からの体力・運動能力の向上      体育専科

### 信頼される学校づくり

- 学校HP、すぐるを活用した情報発信       参観懇談の充実と発信       服務規律の徹底
- 児童・保護者に寄り添いチームで対応       地域保護者ボランティアの充実
- PTA活動への連携・協力の充実      いなづみナツノユメ      いなづみ雪あかり
- 実効性のある避難訓練の実施。緊急時対応の工夫改善       地域との連絡、連携の推進
- SCや関係機関との連携       幼稚園・保育園・中学校との連携（パートナー校との連携）

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
「学ぶ力」の育成	「主体性を発揮する子ども」を育成する授業づくりがなされたか	A	<p>○「自己決定の場が主体性を育む」との仮説のもと、2ブロック制の授業研修・討議を実施した。子ども自身が取組方や考え、役割などを自己決定することが主体性を引き出す有効な手立てであることが確認できた。今後は、「より学びが深まる自己決定のタイミングや、子どもが自ら学びを最適に調整するための自己決定のあり方について研究を深めていきたい。</p> <p>○今年度導入した15分モジュール「いなタイム」では、学習内容に応じて習熟、合唱、異学年交流、また、45分授業と組み合わせた「60分授業」など、弾力的な運用を行ってきた。短時間で集中して取り組むことで学習効率が向上し、教科の特性に合わせた質の高い学びを実現できた。今年度の実践内容を職員間で共有・分析することで、次年度のさらなる教育課程の充実に繋げていきたい。</p>	A	A
	放課後課題から家庭学習を行うことで自主性が身に付けさせることができたか	B	<p>○今年度から一律の宿題を廃止し、自ら学びを選択する「家庭学習」へと移行した。導入にあたり、「家庭学習のススメ」というガイドラインの配付や任意の記録表、担任の助言等を行い、主体性を引き出す土壌づくりに努めた結果、自らの興味や課題に応じて学習に取り組んでいる児童の姿が確認できている。一方で、保護者アンケート等では戸惑いや不安の声が表れている。今後は、家庭学習の毎朝の記録をルーティン化し、学校側が家庭での児童の努力を可視化し、丁寧なフィードバックをしながら家庭と一緒に自主的な子どもの育成を目指し取組を進めていきたい。</p>	A	A
	外部の力を取り入れた教育活動の工夫がなされていたか	A	<p>○「本物に触れる体験的な学び」を重視し、多様な学年・教科で外部講師を招いたり、校外学習を推進したりしている。今年度は、初めてスキーのインストラクターをお願いした。専門家による直接指導は児童の好奇心を強く刺激し、子どもからも教職員からも「授業の質が向上した」と極めて高い評価を得ている。今後も、これらの活動の時期やねらいをさらに明確化し、教育課程へ効果的に位置づけることで、体験を既習事項と関連付け、思考を深めていけるようにしたい。</p>	A	A

<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<p>○家庭学習の記録というのは、小学生には正直難しさもある。宿題の必要性、最低限これだけはというものを配付することで進みの確認にもなる。宿題のプリントの復活を強く希望する。</p> <p>⇒主体的に学ぶ姿を目指し、今年度から宿題を廃止した。保護者の不安感を受け止め、子どもに家庭学習のアドバイスをしたり、保護者や子どもへ取り組み内容を共有したりしながら、来年度も進めていきたいと考えている。毎日の記録に関しては、毎朝のシャボテンログの打ち込みと同時、選択制で簡単に取り組める方法で考えている。</p>				
<p>「豊かな心」の育成</p>	<p>子どもたちの自己肯定感を高めることができたか</p>	<p>A</p>	<p>○ふれあい活動や学校行事の取組の中で、お互いのよさや頑張りを伝え合う場を意図的に設けてきた。その結果、「友達のよさに気付くことができた」児童は95%に及び、「自分にはよいところがある」と回答した児童は88%に達し、自己肯定感の高まりが見られた。今後は、挨拶や言葉遣いに対する道徳の授業や子どもたちの自主的な活動に取り組み、互いを尊重し高め合える集団づくりを推進していく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
	<p>いじめの未然防止・早期発見早期対応がなされたか</p>	<p>A</p>	<p>○いじめ対策委員会を月1回開催し、教職員間で迅速な情報共有と組織的な対応を徹底した。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携を密にし、様々な支援体制を構築するようになった。また、シャボテンログによる毎朝の健康チェックや、春秋のアンケート、十分な聞き取り時間を確保することで、小さな変化や兆候も見逃さない早期発見・早期対応に努めることができた。児童アンケートによると、困ったことなどを「誰にも相談しない。」という層があるので、そこに向けてのアプローチも必要と感じている。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
	<p>社会・地域・保護者とつながる教育環境を作ることができたか</p>	<p>B</p>	<p>○OPTA主催 第4回「いなづみナツノユメ」、そして、第5回「いなづみ雪あかり」を開催した。地区センターの保健師がナツノユメにブースをださったり、雪像づくりに地域の方も加わってくださったりして、子ども達や保護者、地域のつながりが生まれる場となった。今後は、持続可能な開催方法を検討していくことも課題の一つであると考え</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<p>○他人に対する関わり方、通常級の子が支援級の子に差別的な表現や態度をとるのを数回以上見ている。そのあたりの教育も考えていただきたい。</p> <p>⇒即時の指導を徹底するとともに、共生社会に向け、互いの違いを尊重し合える心の育成を道徳の授業や日々の子どもたちとの関わり方の中で進めていく。</p>				

「健やかな体」の育成	運動嫌いを作らない体育学習や体力向上の取組がなされていたか	A	<p>○体育専科による専門性の高い指導を実現している。準備の効率化により十分な運動時間を確保できていることも大きな成果である。学級内の人間関係が学習に影響する場面も見られるため、担任との連携をさらに密にし、児童の状況に即した細やかなフォロー体制を整え、専門性と学級経営の両面から、より質の高い体育学習を行っていききたい。</p> <p>○休み時間の体育館・グラウンド遊びを推奨し、委員会主体でマラソン大会やシュートチャレンジ等の運動企画を実施した。その結果、外遊びへの参加者が大幅に増加し、主体的な運動習慣の定着と体力向上に繋がった。今後は、運動の質の更なる向上や、運動が苦手な児童も継続して楽しめる仕掛け作りを継続していききたい。</p>	A	A
	充実した保健指導や食指導がなされていたか	B	<p>○養護教諭や栄養教諭、外部団体との連携による専門性の高い保健・食育指導を推進してきた。複数年を見通した計画的なカリキュラムで、発達段階に応じた継続的な指導をしている。リザーブ給食やバイキング給食は、児童が自ら選択し、楽しみながら食への理解を深める貴重な機会となっているので、今後も継続して取り組んでいきたい。</p>	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>○マラソンはハードルが高そうに感じます。遠足ができないのはなぜですか。PTAに協力を求めたりしてでも「歩く」ということの大切さから健やかな体作りを行ってはいかがですか？秋にでも開催できませんか？</p> <p>⇒マラソンは中休みの委員会活動のイベントとして、自由参加で、無理のないスピードで取り組むよう声かけをして行った結果、友達と仲良く走ったり、体力テストの結果が向上したと喜んだりしている児童がいた。しかし、ご指摘の通り、マラソンとなると心理的、身体的ハードルの高さを感じてしまうお子さんもいたと推測される。また、遠足に関しては、引率人員の配置、児童の安全の確保など万全な体制構築が大きな課題となっている。健やかな体育成のために、ご指摘いただいた内容を踏まえ、来年度以降の教育活動にいかしていく。</p>				
信頼される学校づくり	子どもの発達支援の充実がなされたか	A	<p>○外部専門機関や行政と連携し、チーム学校で個別支援を徹底した。不登校対応ではパートナー制度を活用し、別室登校等の居場所作りを進めた。個々の実態に応じた支援が多岐にわたる中、理想と現実の差を埋めるべく、職員間で情報を共有し、限られた人員と資源の中で最善を尽くす支援体制を構築していききたい。</p>	A	A

信頼される学校づくり	正しい情報を素早く伝え合う環境が整備されたか	B	○学校 HP やすぐーるを活用し、保護者や地域へ迅速な情報発信に努めた。特にすぐーるは適宜運用でき、情報の即時共有に有効であった。一方、個人情報保護の観点から HP のトップページ掲載を控えたため、学級ページのみ閲覧となり利便性に課題が残る。今後は参観懇談や児童会行事の案内を積極的に発信し、より開かれた情報共有の環境整備を推進していきたい。	A	A
	小中一貫した教育が推進されたか	A	○春の札教研事業の授業交流会や教員による生徒指導交流会、6年生児童の中学校見学、生徒会による説明会など、数多くの交流を実施できた。また、今年度は、秋の3校交流会で、各テーマの実務者が集うことにより、小中教職員の連携が明確になり、中学校生活を見据えた指導が小学校で行えるようになってきた。	A	A
	幼保小の連携がなされたか	A	○いなづみ発表会児童公開日の観覧や園の子どもたちを招待しての遊びランドの開催、1年生が園の発表会の観覧などの交流を計画した。感染症の流行で今年は、昨年度より交流が少なくなってしまったが、お互いのねらいをはっきりさせて交流できたのは成果である。感染症のはやらない時期に何かできることはないか検討することも、連携の充実につながると考える。 ○新1年生がスムーズに学校生活をスタートできるよう、保護者や園との入学前の情報交流を積極的に行うことで、個に応じた指導を行うことができた。	A	A
	地域との連携がなされたか	A	○交通ボランティアやスクールガードなど地域の方が子どもの登下校の見守りをしてくださることで、子どもの登下校の安全が確実に守られている。 ○ふるさと祭りに5・6年生の有志が参加し、「南中ソーラン」を披露した。地域の皆様の温かなまなざしに支えられ、学校との結びつきがより一層感じられた。今後も、地域行事への主体的で前向きな参加を促していく。 ○9月「地震後の津波」の屋上に避難する避難訓練を園の子どもたちと、今年度は近隣施設と一緒にいった。緊急時の対応について、地域と確認することができた。	A	A

<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<p>○携帯電話を用い、ご厚意で行って来ていた宿泊学習や修学旅行時のリアルタイムな配信がなくなったのは残念。特別な日、複数教員がいる場面での使用はOKなど、(教室は教員が一人のため、教員の方が困ってしまう危険性あり)ルール決めはそれぞれの学校でできないのでしょうか？</p> <p>→リアル配信は、子どもの様子をお届けできる反面、個人情報の保護や行事中の子どもの安全管理、教職員の指導体制への影響など、慎重な判断が必要な課題もあります。学校独自のルールづくりを含め児童の情報共有の方法を模索していく。</p>
-----------------------	--